

# 平成25年度 魚沼市家庭科部 活動報告

部長 井口 聡子

## 1 研究主題

- 新学習指導要領の主旨を生かした家庭科授業の工夫・改善
  - ・家庭生活とのつながりを大切にする単元構想や授業の工夫
  - ・実感を伴って理解する学習活動の充実

## 2 研究の概要

(1) 4月17日(水) 家庭科部会総会 : 魚沼市立堀之内中学校

(2) 8月 8日(木) 研修会① : 広神ボランティアセンター

### ○教育課程伝達講習

- ・中越地区教育課程研究集会に参加した魚沼市立入広瀬小学校今村教諭が部員に、主に家庭科における指導と評価の一体化について資料をもとに伝達講習をした。その後、各校での実践などを基にし、質疑応答、情報交換を行った。

### ○共同教材研究

単元名 : 『ぬって作ろう 楽しい生活』(5学年)

内容 : 2学期に指導する5年生のミシンを使った学習について、2グループに分かれ、指導案を作成した。その後、グループごとに指導計画を発表し、協議した。

(3) 11月 7日(木) 研修会② : 広神ボランティアセンター

### ○レポートをもとにした情報交換

テーマ : 「家庭科における実践力をつけるための工夫」

内容 : 各学校の実践をもちより、情報交換を行い、指導法について協議した。

## 3 成果と課題

研修①の伝達講習では、ポイントとして、子どもの実態をふまえた指導計画の作成、評価の指導計画への着実な位置付け、家庭と連携した取組の推進、指導と評価の一体化を図ることの伝達があった。共同教材研究で、授業づくりのこつや技能を着実に身に付けるために心がけていることを確認でき、2学期の授業に活かすことができた。

実践の情報交換では、家庭科ファイルによる家庭との連携、アンケートで経験の差をとらえ学び合いに活かす指導の工夫、家庭科新聞づくりによる言語活動の充実など、実際に効果のあった指導の工夫について学び合うことができた。

今年度の取組を通し、子どもの実態に応じた指導や家庭の協力を仰ぎ、連携していくことの大切さを改めて知ることができた。具体的な改善策が協議されたことも成果である。各校でその後の家庭科の指導や家庭科部の運営に反映できたことと思う。

課題として挙げたのは、教科の専門性を高める場や機会の充実を図ること、家庭での実践を授業とリンクさせる工夫であった。今後も、さらに研修を深めていきたい。